

2027年3月期 第1四半期 決算説明資料

Kudan株式会社（東証グロース：4425）
2026年8月13日

Vision – フィジカルAI時代の空間知覚プラットフォーム

身体性のないAI



販売データを分析し、
新商品アイデアを
考えて

製品の広告イメージ
と販促計画を作って

原理

データ取得

学習

応用先

文章・画像・コード生成
による業務効率化

身体性のあるフィジカルAI



現場を巡回し、稼働
が下がってる原因を
特定して

部品を現場に運ん
で設置して

原理

空間知覚（機械の眼）
kudarn

行動・継続学習

応用先

デジタルツイン
による現場生産性向上

移動ロボット
による自動化

フィジカルAIへの基盤技術提供による高収益を目指す

～24/3期

25/3期

26/3期（前期）

27/3期（今期）

28/3期～

市場

従来市場の先行

フィジカルAI市場の勃興

事業

技術実績を蓄積

- 世界初の半導体向け商用化¹
- 継続的な顧客製品化

技術領域の拡張

- SW/HW/ソリューションの新規拡大
- 市場開拓

収益最適化

- 高粗利SWへの注力

高い収益性での事業成長

売上伸長

赤字縮小

売上伸長・黒字化

1. 2022年に大手半導体プラットフォーム向け商用SLAMとして世界初の採用（米Intel社）

- 前期比で売上減となるが、**通期予想に向けて進捗**
- HWから高粗利SWへの戦略的な転換¹によって、**前期比で粗利が増加（62百万円）**
- 前期の固定費削減²とも合わせて、**営業赤字幅が改善（97百万円）**

[百万円]	前期 (26/3期)		当期 (27/3期)		前期との主な差分
	1Q実績	通期実績	1Q実績	通期予想	
売上高	168	1,197	112	1,030	・SW売上増（+36） ・HW売上減（-93）
営業利益	△245	△586	△148	△340	・SW集中・SW粗利率増加による利益増 ¹ （+62） ・固定費削減による効果 ² （+52）
経常利益	△229	△174	△70		・グループ内債権債務の評価による為替差益増（+62）
純利益	△230	△188	△71		
調整後 営業利益 ³	△230	△528	△148		

1. 中長期でのコアSW技術の普及を前提とした収益最大化を目指すため、先行する低粗利HWから高粗利SWへの集中により、今期は粗利におけるSW比率を大きく改善（本資料P.9～10参照）
2. 前々期の開発増強を経て、前期は戦略的な構造変化としてコスト最適化の計画を通期で達成（本資料P.8を参照）
3. 営業利益（損失）に毎期経常的に発生する政府からの研究開発補助金収入を加えた、事業収益性の指標となる利益数値

今期の成長戦略

- 前期方針から継続・発展し、新たに「高粗利SWへの集中」「フィジカルAI向けデータ技術の提供」に着手

前期の方針¹

今期の方針

HWパッケージ
の活用

更新

高粗利SW
への集中

- これまでのHW販売を「呼び水」¹としたSW販売への注力拡大と粗利最大化

SW技術・
ソリューション拡大

継続

SW技術・
ソリューション拡大

- ロボット・デジタルツイン両領域で、継続した技術・事業拡大を推進

新規

フィジカルAI向け
データ技術の提供

- データ構築のためのフィジカルAI基盤技術
- ロボット・デジタルツインの交差領域として、更なるシナジーと独自優位性を確立

コスト最適化

(目的の達成により完了)

SW

移動ロボット
向け

データ
技術

デジタルツイン
向け

HW

1. HW統合パッケージは顧客が技術検証・設定などの初期導入コストが低く採用できることにより、その後の発展的な案件継続に寄与する

事業進捗（1/2） – デジタルツイン向け事業



- ソリューション（Kudan PRISM）を中心に**HWから高粗利SWへの集中が赤字縮小に寄与**、今期は改善が継続見込み
- 商用化の進捗と展開地域の拡大により、**継続的な顧客基盤と収益の拡大を進展**

デジタルツインソリューション（PRISM）

概要	・設備管理の生産性向上 ・現場とデジタルの情報を繋ぎ、情報共有・データ活用を高度化
先進機能	・「人間の知覚と同等」の空間キャプチャで現実を丸ごと3D化 ・人間の代わりに3D空間内で多様な知能タスクを遂行



1Qでの事業進捗

高粗利SW	・「HW評価」から「SWソリューション導入検証」へのフェーズ進展などにより、 より粗利の高いSWへの転換が進捗
商用化の進捗	・Log build社の建設向けソリューション「Log Walk」に技術採用 ¹ ・公共インフラ向け案件などのソリューション商用化も今期見込む
欧州公共案件	・東欧政府機関による全国インフラ整備 ² 、ドイツ地方インフラ事業のエネルギー施設管理 ³ 、欧州大手設備管理企業 ⁴ など向けに、 欧州中心に顧客基盤が拡大
災害対応	・日本官公庁・自治体と連携した実地検証を推進（防災デジタルツイン ⁵ ）

・高粗利SW・商用化による継続収益の達成

・顧客基盤の拡大（今期顧客数+150%）

・欧州中心に展開地域拡大（今期10カ国）

1. KudanのSLAMとAIを活用し、360度カメラで撮影した建設現場を位置・視点情報付きの空間データとして記録・遠隔確認することで、現場訪問を削減しながら施工進捗・品質管理を効率化（過去開示を参照）

2. 全国規模のエネルギーインフラ向けデジタルツインDX基盤の整備

3. 数千kmネットワーク/数万設備を対象としたエネルギーインフラ向け設備管理DXを複数案件で計画

4. 大手物流設備・ヘルスケア関連施設・金融関連施設・不動産などへソリューション導入拡大を計画

5. 地域・避難施設のデジタルツイン構築、災害時の被害状況把握・分析を実施予定

5

事業進捗（2/2）－ 移動ロボット向け事業

- 前期から推進するロボット向け自律移動の基盤技術にて**継続的に売上・案件規模を大型化**
- グローバルで産官学連携を大幅に拡大し、**技術浸透に向けた事業基盤を構築**

ロボット自律移動基盤の進化

数理的手法
中心（既存）

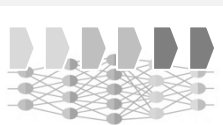


フィジカルAI
モデル（最新）



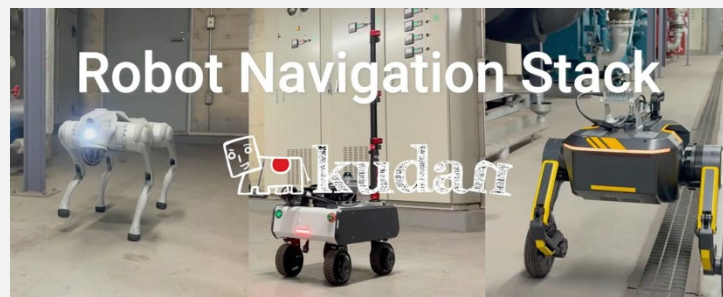
より汎用性が高い

ハイブリッド
モデル（今後）



より汎用かつ安定

- ・移動ロボットへのフィジカルAIモデル実装は先進性が高く¹、市場での先行ポジションを強化
- ・将来的なハイブリッド化に向けても先行



Robot Navigation Stack

kudan

1Qでの事業進捗



既存案件推進（ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業/ロボティクス分野におけるソフトウェア開発基盤構築）

- ・汎用的な移動ロボット技術の確立のため、建設業界横断（建設RXコンソと連携）で進捗²、今後の共創基盤マーケットプレイスへも提供



産官学連携ネットワーク・プロジェクトの拡大を通じて、今期案件拡大見込み

- ・ドイツ最大規模の産学連携プロジェクトMIRMI³への参画
- ・ドイツ機械工業連盟⁴（VDMA） / バイエルン州立イノベーション機関⁵（Bayern Innovativ）と連携開始
- ・英国立イノベーション機関⁶（Innovate UK）との連携拡大

・産業エコシステム内での共同開発・事業拡大

・リファレンス構築・標準化への関与による技術浸透

・今期案件数の拡大（+250%）

1. フィジカルAIはアーム操作（腕）が先行し、自律移動（足）はデータ取得が難しく限定的市場状況
2. 本資料P.13を参照
3. ミュンヘン工科大学によるAIロボティクス向け産官学連携拠点・プロジェクト

4. 欧州最大の機械・産業エンジニアリングネットワークのAI・ロボティクス分科会にて技術提供を促進
5. 州内の産官学連携およびEnterprise Europe Networkを通じた国際展開による案件創出
6. ディープテック・AIを重点分野とした共同研究開発・国際商用展開支援獲得

補足資料 (Appendix)

コスト構造の改善

- 前々期の開発増強を経て、**前期はコスト最適化の計画¹を通期で達成**
- 戦略的な構造変化を過渡期として終え、**今後は持続可能な開発体制の維持・強化の方針**

固定コスト²の推移（年間換算³） [百万円]

前々期（25/3期）

前期（26/3期）

今期（27/3期）

期首時点の実績

期首時点の実績

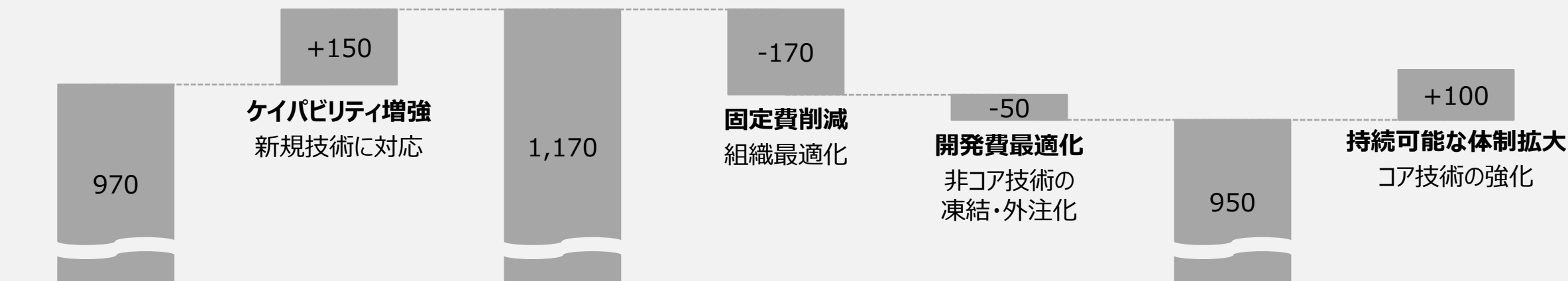
期首時点の実績

戦略実行にともなう構造変革（過渡期）

持続的な事業投資

新技術領域への拡張¹

定常コストの最適化



1. 過去資料 2025年3月期 通期決算説明資料 のP16を参照

2. 販管費のうち一時的な費用を除いたもの。開発費を含む。

3. 各時点での費用実績及び見込を12か月換算したもの

高粗利SWへの集中

- HWで効果的に補完しながら、**中長期でのコアSW技術の普及を前提とした収益最大化を目指す**
- 先行する低粗利HWから高粗利SWへの集中により、**今期は粗利¹におけるSW比率を大きく改善**

	売上		粗利 ¹		段階的な事業フェーズ
	SW販売	HW販売		SW比率	
戦略	・コア技術普及による 継続収益の拡大	・売上の多層化 ・市場開拓の「呼び水」 ²	・SW/HW相互補完による 収益の最大化		
24/3期				93%	達成 ・SWの有効性を市場実績として実証
25/3期				76%	
26/3期				56%	達成 ・HWパッケージを活用した市場開拓
27/3期				89%	目標 ・先行するHWからSWへの移行
28/3期				90%~	目標 ・SWを中心とした継続収益での成長
29/3期				90%~	

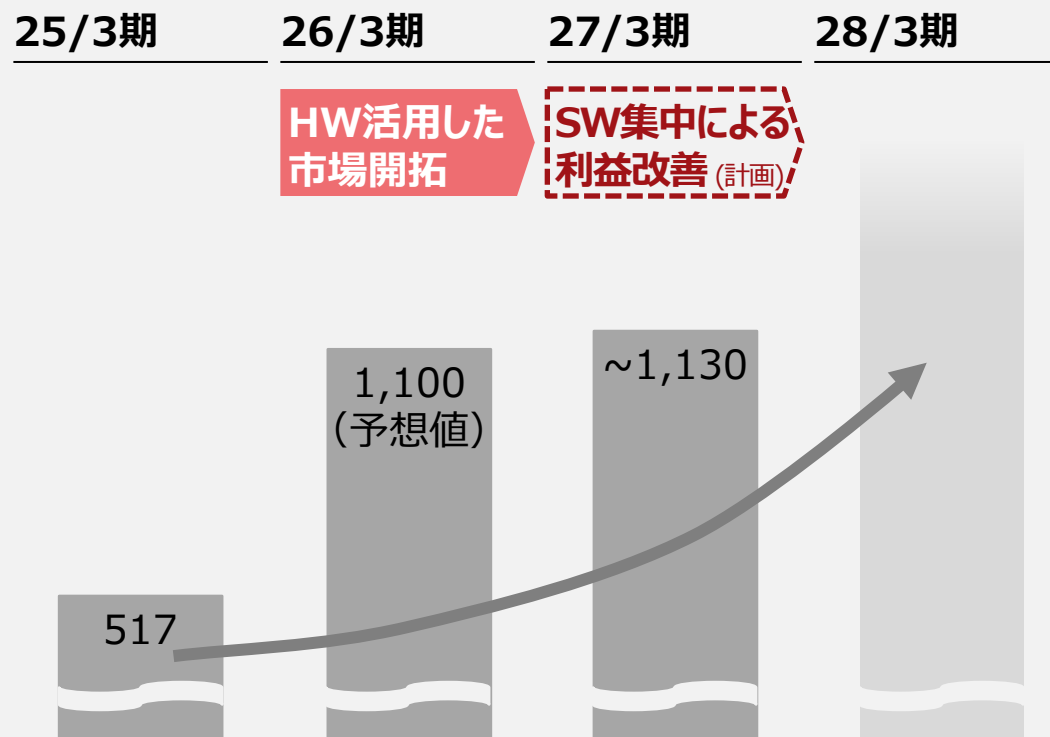
1. 連結損益計算書の売上原価のうち、研究開発費に相当する額を控除し算定した粗利（政府案件の費用は研究開発的な性質を一部有するものの、案件の特殊性により当該費用が売上原価として会計処理されることを考慮）
2. HW統合パッケージは顧客が技術検証・設定などの初期導入コストが低く採用できることにより、その後の発展的な案件継続に寄与する

9

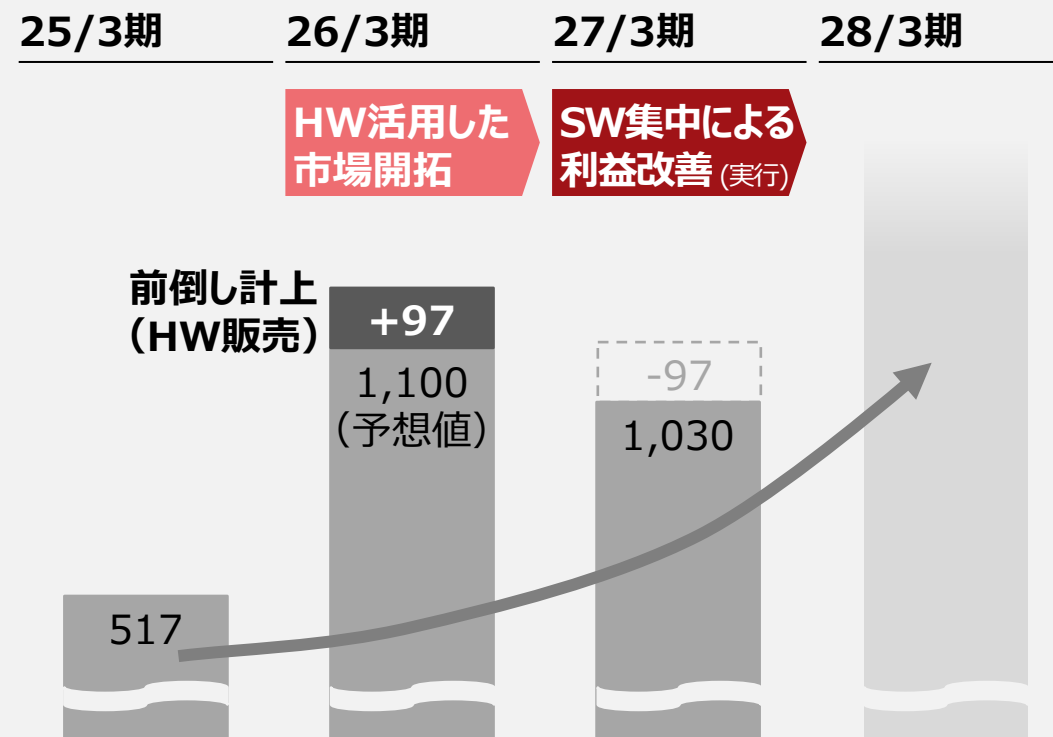
高粗利SWへの集中

- SW集中の実行にともない¹、今期に想定していた**HWパッケージの一部売上が前期に前倒しで計上**
- 一過性の売上減であり、**来期以降に収益性を高めた売上成長・黒字化を見込む**

業績予想時点（26年3月）から、
SW/HWの戦略的な成長を計画しており...



前期実績としては、
SW集中の実行に際してHW販売の前倒し計上が発生

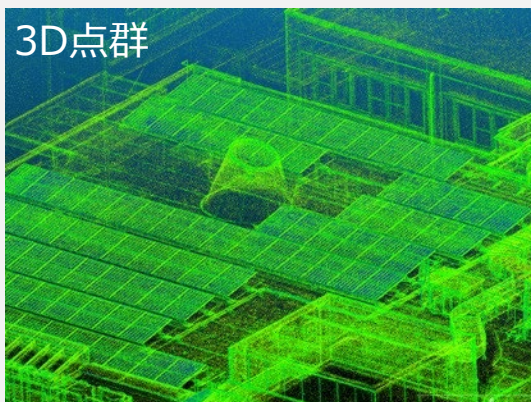


デジタルツイン（PRISM詳細）

- 社会需要が非常に高いものの、従来手法では実用化に制約があった分野に対し、Kudan PRISMは革新的な技術手法を導入し、ソリューションの実用化と普及を目指す

PRISMによる先進技術のソリューション化

従来手法

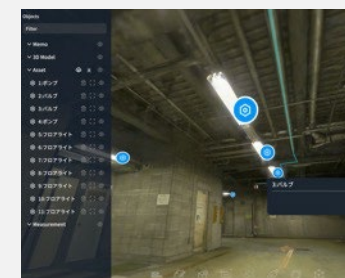


- 3D点群中心のデータ
- 実用化が限定的
(AI精度不足、データ容量・取扱い困難、システム連携困難)

- 「人間の知覚と同等」なフィジカル空間知覚（フォトリアル表示など）
- 現実理解AIエンジン
(セマンティック3D認識など) で、AI有効性が飛躍的に拡大
- データ利用・連携が効率化

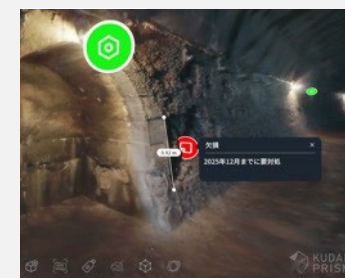
幅広い産業DXに活用（一部事例を抜粋）

施設・
設備管理



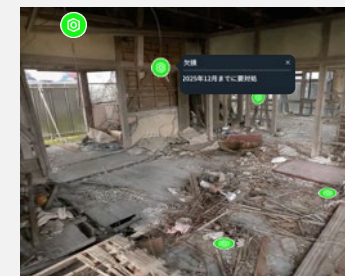
- 従来困難だった領域でのDX促進により、業務自動化・効率化・作業遠隔化を実現

インフラ
点検保守



- 先進国共通の現場労働力不足、老朽インフラ維持に向けて需要が拡大

スマート
シティ・
災害対応



- 需要が高まる災害シミュレーション・防災設計高度化に対応、人命保護・災害復興に貢献

Kudan
PRISM
による
革新手法

移動ロボット（市場背景）

- 移動ロボットの市場は巨大であり、**実用化に向けた技術課題解決への需要は高い**



従来技術で実用可能なのは3~5%程度

2次元認識



インフラ活用

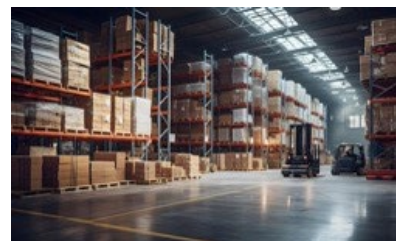


GPS測位



2040年には300兆円¹に成長する移動ロボット市場の大半は次世代技術が必要な複雑環境

頻繁な環境変化



大量の移動物・人



屋内外混合



特徴が少ない環境



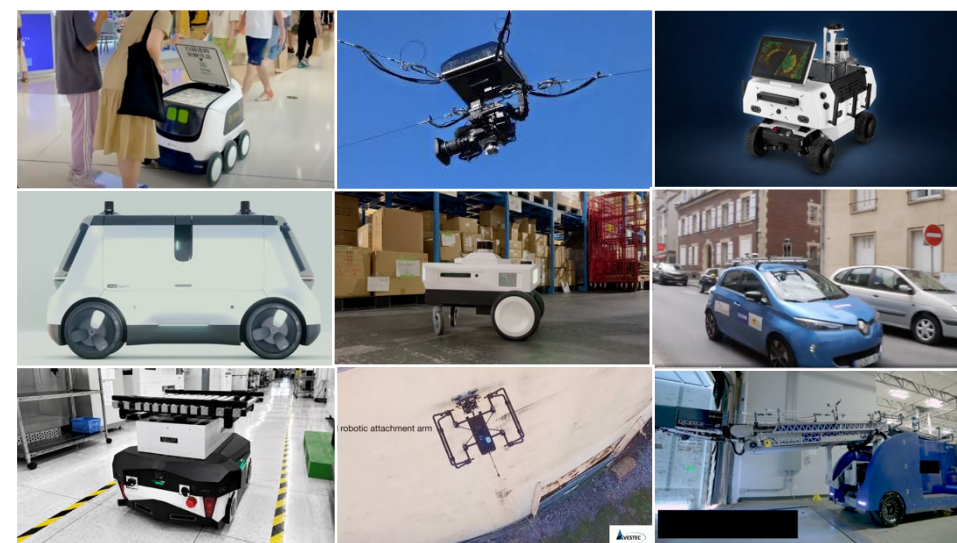
複雑な立体構造



屋内オープンスペース



Kudanはグローバルでの実績・商用化



1. BCC ResearchやMarket Research Future等の調査より、複数の高成長セグメント（CAGR 12~16%以上）を背景に、2040年には市場全体が300兆円（約2兆ドル）規模に達する可能性

移動ロボット（政府案件詳細）

■ 経産省・建設業界大手が推進するSW開発事業で開発リーダー¹として推進、**日本におけるコア技術の牽引を担う**

日本の国策

- 深刻な労働力不足の解消のため、**政府と産業界はフィジカルAI・ロボット施策を強化**
- ロボット自律移動は**難易度が高い現場向けに技術革新が必須**

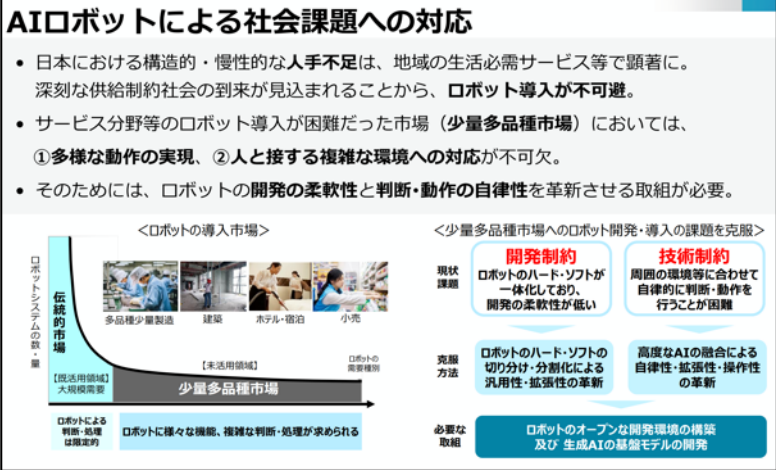
案件概要

- 建設現場向けを導入として、**建設RXコンソ²**（建設大手各社加盟）と**業界横断で推進**
- 汎用的なロボット自律移動の技術を確立し、将来的にはより幅広い産業³へ展開

当社の役割と今後への期待

- 実績を評価され、**中核的リーダー¹として推進**
- 当社技術の**社会実装・普及も加速**
- フィジカルAI・ロボット施策を強化する**政府と継続して緊密に連携**

経済産業省資料抜粋



公募元	NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合研究機構）
事業名	ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／ロボティクス分野におけるソフトウェア開発基盤構築
採択テーマ	建設市場のロボティクス分野におけるソフトウェア開発基盤の研究開発
実施期間	2025年度～2027年度予定
全体予算	103億円（3年間合計）

建設向け自律走行ロボットのイメージ



- **産業横断基盤の開発プラットフォーム・マーケットプレイスへ提供**
- **高市新政権の成長投資の戦略分野の筆頭となるAI・半導体と連携強化**

1. ロボット自律走行を実現するためのソフトウェアモジュールの開発を主導（計画策定・進行、中核技術の設計と開発、参画企業らの開発成果の統合）
2. 建設業界が抱える就労人口の減少、生産性・安全性の向上などの諸課題の解決に向け、施工ロボットやIoTアプリ等の開発と利用に係るロボティクストランスフォーメーション（ロボット変革）を推進すべく設立した民間団体
3. 物流・製造・インフラ管理・農業など幅広い産業への波及的な展開にも期待

本資料の取り扱いについて

本資料は、当社の事業および業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性がつきまとっています。

すでに知られたもしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、現時点において、利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

本資料に記載されている当社以外の企業等に関する情報及び第三者の作成に係る情報は、公開情報等から引用したものであり、そのデータ・指標等の正確性・適切性等について、当社は独自の検証は行っておらず、何らその責任を負うことはできません。